

学校教育目標	創造する（かしこく） 心豊かに（ゆたかに） 鍛える生徒（たくましく）
目指す学校像	生徒・教職員 一人ひとりの志（希望）を支え、誰もが成長を実感できる笑顔（あい）あふれる学校

重点目標	1 「学びの自律」「学びの個別最適化」と「学びの探求化」の実現 2 組織で取り組む温かい人間関係の構築と生徒指導・教育相談体制の充実 3 学校に携わるすべての人々の Well-being（幸せ）の実現に向けた、開かれた教育課程の推進 4 安全・安心な教育環境の整備・充実 5 「生徒の探求的な学びに伴走できる教師」の具現化
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価
年 度 目 標					年 度 評 価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【学びの質の向上に関する取組】 （現状） ○全国学力・学習状況調査において、数学、英語においては、やや全国の平均を上回っているが、市の学習状況調査では、各学年市の平均を下回っている。 ○基礎学力の定着状況に大きな個人差（フタコブ分布）がある。 （課題） ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、基礎的・基本的な知識・技能が定着していない部分があることと、「家で、自分で計画を立てて勉強している」の項目の数値が低く、学習計画の立て方や励ましの継続的な取組が必要である。 ○教科の特質に応じてＩＣＴを活用した学習活動を設定し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善が必要である。	・「学びの自律」「学びの個別最適化」「学びの探求化」に向けた実践	①学校の課題に基づき、学力向上ポートフォリオの手立てについて自己評価シートに各教員が位置付ける。 ②校務分掌の「学習部」を中心にドリルパークやスタディサブリの活用と家庭学習の定着・充実に取り組む。 ③生徒が主体的に取組む家庭学習の充実とモジュール学習の設定による基礎学力を定着させる。 ④学びの自律化を目指すＩＣＴを基盤とした「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業を実践する。	①人事評価面談において、すべての教員が位置づけ、評価面談等が実施できたか。 ②学校評価「⑤家庭学習の習慣がなされている」において、肯定的回答が５９％以上となったか。 ③定期テスト前の朝自習の時間を教科の取組として学習に取り組むことができたか。 ④「学びの指標」のアンケート項目で 3.1 以上となったか。			
		・心の教育・豊かな人間性の育成	①自己の生き方について深める道徳科の授業改善や、特別活動総合的な学習の時間（潤いの時間STEAMS TIME等）を通して、豊かな人間性や創造性を育む授業実践に取り組む。 ②生徒主体の生徒会活動を活性化させ、校則の見直しやＳＤＧｓの実現を目指した取組、ボランティア活動を実践する。	①学校評価に係る項目「⑮学校は私たちの生き方について、考えさせたり豊かな心を育てようとしていたりしている」について、肯定的な回答の割合が、94％以上となったか。 ②全国学力・学習状況調査において、「地域や社会をよくするために何かしてみたいですか」の項目で肯定的回答が８０％以上となったか。			
2	【子どもの発達や心のサポートに関する取組】 （現状） ○学校評価において、「楽しく学校生活を送っている」は 98％となり、昨年度をより３ポイント向上している。 ○特別に配慮を要する生徒の数は、年々増加傾向にある。 （課題）○中一ギャップ、生活の変化が生徒の心身に与える影響が大きいことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、組織で支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○信頼度における肯定的な回答は５６％であり、自己肯定感の向上を図る必要がある。	・個に応じた生徒指導・教育相談における支援体制の充実	①個別対応が必要な生徒の職員配置を柔軟に行い。個別の指導計画に反映させる。 ②生徒指導・教育相談・特別支援委員会等で、生徒個々の状況を、ICT（SSSP 等）を活用した蓄積データ等でも把握し、組織的に細やかな支援、相談を行う。 ③「Sola るーむ」の運用と利用について体制を整える。	①学校評価に係る生徒・保護者「⑪学校は、私たちや保護者の相談事や悩みなどについて、親身に応じてくれる」等関連する項目の肯定的な回答の割合 93％以上となったか。 ②学校評価に係る教員において「⑰相談事や悩み事について親身に応じている」の肯定的な回答の割合が98％以上となったか。 ③「Sola ルーム」の適切な支援ができたか。			
		・連続性を生かした小・中一貫教育の推進	①大宮西小との相互授業参観や合同研修を実施し児童生徒の教育的課題を把握・共有する。 ②学校行事の充実・改善、つぼみの日、あいさつ運動、いじめ撲滅子ども会議、ひまわり特別支援学校との交流事業を実施する。	①心と生活のアンケートの信頼度を昨年の値、56％以上となったか。 ②学校評価に係る生徒⑬学校行事は楽しく充実している」と肯定的な回答する生徒の割合が98％ 以上となったか。			
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 （現状）○藤花教室の学習支援ボランティア、自治会・育成会・PTA を中心とした SSN からの支援を得て、地域と学校との協働活動が実施されている。 ○土曜チャレンジスクール（藤花教室）の参加者については、減少傾向にあったが、昨年は 7 1 名増加した。 （課題） ○学校運営協議会で協議した内容について、その実現に向けた具体的な方策と実行について役割を確認し、家庭・地域と共に、継続的に取組を推進していくことが課題である。 ○学校・家庭・地域が連携し、協働していくことが求められる。	・学校運営協議会・SSN 連携の強化と地域連携事業の実施と推進	①地域の教育リソース（土曜チャレ：藤花教室）を活用した教育活動を年間計画に位置付けて年 20 回実施と今年度より土、日の他、課業日開催を 3 回とし、参加者を増やす。 ②公民館との連携事業、地域行事等への積極的な参加と、朝のあいさつ運動やボランティア活動等を生徒、PTA・地域とともに、連携して実施する。	①土曜チャレンジスクール（藤花教室）が、年間 2 0 回実施し、参加者が、昨年度平均 15 人以上となったか。 ②学校自己評価「⑪地域の行事に積極的に参加し「ている」で肯定的回答が 37％以上、「⑫保護者の行事参加」で、肯定的回答の割合が 82％を上回ったか。			
		・開かれた学校づくりを目指した情報発信	①教育課程説明会・保護者会・その他行事等において、目指す生徒の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ②学校・学年だより、学校HP、学校安心メール等で情報を発信するとともにＩＣＴ等を活用しながら学校公開、授業参観、保護者会等を実施する。	①学校自己評価に係る生徒・保護者、「①目標をもって学校生活を送っている」の肯定的な回答の割合が 84％以上となったか。 ②学校評価「⑳保護者は学校とのコミュニケーションがうまくとれている」の肯定的な回答の割合が 82％以上となったか。			
4	【教育環境の整備に関する取組】 （現状） ○施錠の徹底と施設、設備の安全点検を毎月行い、不備な箇所は迅速に対応している。 ○体罰・暴言・不適切な指導の発生は 1 件であった。 （課題） ○SNS に関する使い方についての指導を行っているが、適切な利用について課題がある。	安全、安心な教育環境の構築	①校内の安全点検を毎月行い、不具合な箇所は業務や市教委と連絡を取り合い迅速に対応する。 ②教職員の不適切な指導に関する研修等を行い、未然防止に努める。	①月 1 回の安全点検権を計画的に行うことができたか。 ②指導法の研修や教師としての自覚に関するアンケートを実施できたか。			
		生徒の安全指導に関する計画的な取組	①スマホ・タブレットに関する安全教室の実施と「いじめ防止」に関する取組を計画的に学校全体で行う。	①「いじめ防止」に関する取組を学校全体で実施できたか。また、生徒指導や教育相談に関する案件に対し迅速に組織で取り組むことができたか。			
5	【教職員のキャリア形成に関する取組】 （現状） ○ICT の活用については、提出物の集約や定期テスト、アンケート機能の活用等、進んでいる。 ○教員個々の研修については、面談等で行い、目標をもって取り組んでいる。 （課題） ○タブレットの活用、授業改善については個人差が見られ、成果や課題の共有が必要である。 ○組織としての質を高めるために、職員の状況把握と、支援内容の共通理解する必要がある。	・生徒の探求的な学びに伴走できる教師の具現化	①学力向上カウンセリングの研修と全国教員研修プラットフォーム Plant の積極的な参加する。 ②当初面談時に研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励に関する指導・助言と振り返りを行う。 ③中間テストの見直し・アンケート機能の活用等のさらなる活用に取り組む。	①後の、学びの指標、授業アンケート項目において 3 . 4 以上となったか。 ②学校評価「⑰学校はわかりやすい授業の実践に努めている」では、昨年度同 100％の教員が、授業改善に取り組むことができたか。 ③1 学期のテストの見直しができたか。			
		・業務の精選と効率化を図る	①朝の打ち合わせ日程削減・ICT 等の活用により、業務の効率化を図る。	①朝の打ち合わせの内容の伝達の精選・昨年度の 40.56 時間を下回ったか。			